

## 中越ブロック研究大会

### 【分科会の成果と課題】

#### [成果]

- ◇小中連携を図るには顔の見える関係づくりが、所属意識、参画意識を向上させることにつながる。教頭として、「職員の達成感・充実感を高める指導助言の必要性」や「学校間・地域間における連絡調整の重要性」等が重要であることを共有できた。
- ◇社会性育成のための合同研修会や社会性育成リーフレット作成等で教職員の共通理解を図ったことにより、「9年間で子どもたちの社会性を育てる」という意識を高めることができた。小中、小小交流活動も社会性育成において有効であることが確認できた。
- ◇中学校区の教頭会が中心的な役割を果たし、各組織に主体的な実践を促したことにより、小・中連携の取組を確実に推進していくことができた。
- ◇教職員の主体的な取組を促すには、取組のよさや方法を共通理解し、組織として動くシステムを構築することと取組の成果が子どもの姿で実感できることが重要である。
- ◇学校の危機管理対策を小中連携で実践したことは、他校の実践に大いに役立つ。特に、校内だけではなく、地域の見守り隊の方と連携した点は参考になった。
- ◇教頭として、自校の立地条件や教育条件を的確に把握し、防災対策を綿密に立てるとともに、災害時に即時対応ができる心構えが大切である。



#### [課題]

- ◆小中の組織を無理なくつなぎ、生かす小中連携コーディネータの存在が必要である。行動連携に向けて、検証改善サイクルをより機能させるために、小中で学校評価を統一することも検討していきたい。
- ◆主体的な取組の推進にはゆとりが必要である。多忙感を生まない工夫をしなければならない。

### 【中越ブロック大会の成果と課題】

#### [成果]

- ◇分科会提案に向けて、各教頭会で熟議を重ねて原稿を作成し、提案性のある内容を全会員で協議することができた。
- ◇アンケートでは、「大会日程」、「開会式」の肯定的評価が100%、「分科会運営」、「閉会式」、「要項関係」の肯定的評価が98%超、「大会日程」の肯定的評価が95%であった。会員からは、大会日程の簡略化や分科会のテーマについて重点化が図られていて有意義な大会であったという意見が多かった。
- ◇少人数グループ編制による分科会は、活発な意見交換がなされ、各会員が自校の教育活動や教頭の関与性を見つめ直す機会となった。
- ◇会場設営をシルバー人材センターの方をお願いした。予算が抑えられた上に丁寧な作業で、当日の準備をスムーズに進めることができた。

#### [課題]

- ◆分科会については、提言内容と協議題の関連を図ること、時間配分の工夫、ファシリテーション的手法を用いた協議会の持ち方等、会員の声を反映させていく。
- ◆大会直前の欠席連絡が多かった。年度当初に実施期日の周知徹底を図る必要がある。